

# 行政改革推進会議（第33回）

## 議 事 録

内閣官房行政改革推進本部事務局

# 行政改革推進会議（第33回） 議 事 次 第

日 時 平成30年12月11日（火）14:20～14:37

場 所 官邸4階大会議室

1. 開 会

2. 議 事

平成30年秋の年次公開検証等の取りまとめ

3. 議長挨拶

4. 閉 会

○宮腰行政改革担当大臣 ただいまから、第33回「行政改革推進会議」を開会します。

本日は、お忙しい中、お集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。

平成30年秋の年次公開検証につきましては、先月、東京都及び山形県においてレビューを実施し、15テーマ、37事業を取り上げました。

今回のレビューの取りまとめの案につきましては、お手元の資料1のとおりです。

歳出改革ワーキンググループの皆様には、多大なる御尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

このほか、資料2として各府省において見直しを行うべき事項、資料3として基金の再点検について取りまとめております。

それでは、議員の皆様から、これらの案について御意見を伺いたく存じます。御発言いただく方は、お手数ですが、ネームプレートをお立てくださいますよう御案内申し上げます。

なお、御発言は、お一人1分程度でお願いできれば、大変助かります。

それでは、向かって右のほうから順番に田中弥生議員さん、お願いいたします。

○田中議員 ありがとうございます。私は、2つ申し上げたいと思います。

1点は、山形大学での行政事業レビュー、もう一つは、運営費交付金に関してでございます。

山形大学での行政事業レビューは、11月17日に実施されまして、ここに宮腰大臣にもお越しいただきました。

改めて、山形大学、小山学長以下、スタッフの皆さんに御礼を申し上げたいと思います。

そして、地方の大学でのレビューというのは3回目になるのですが、新たな試みもなされました。

1つは、このレビューの一月ほど前に、行政改革推進会議事務局の若手のスタッフが山形大学に出向いて、レビューについてレクチャーをしたということなのです。これは、非常に大事でありまして、いきなりレビューを傍聴してもわからないところがあるのですけれども、こういった事前の説明があることによって、より理解を深めることができますし、このレビューの応援団をふやすことになるのではないかと思います。

もう一点は、運営費交付金に関してであります。

この運営費交付金という非常に大きな予算を扱いまして、取りまとめ役をさせていただきました。改めてスピード感をもって改革を進める必要があると思います。

この議論のプロセスで気になった点がございます。

それは、運営費交付金を競争的に配分するに当たって、各お立場、各所属によって説明や解釈が異なっているという点であります。

これは気になりましたので、大学の現場はどうなっているのかということで、何人かに聞いたのですが、実は、どのように配分をされて振ってくるのかよくわからないところがあるというのが多い声でありました。これは、私は非常に問題だと思います。

なぜ、このようなことになるかと言えば、多分、制度が非常に複雑過ぎたり、あるいは新しい制度を入れるときに古い制度を整理しなかったりということで、制度がわかりにくくなっているのではないかと思います。

当事者と国民にわかりやすくするという点から、制度設計のあり方を明確かつ透明にしてゆくことも、行革の大事な役割ではないかと思います。

以上です。

○宮腰行政改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、次に、小林栄三議員さん、お願いいたします。

○小林議員 ありがとうございます。

レビュー結果そのものにつきましては、特に大きな違和感はありませんが、2点コメントを申し上げます。

まず1点目、今、田中議員もコメントされました運営費交付金の件でございますが、しっかり成果を上げている大学に、より重点的に交付金が配分されるというのは非常に望ましいことだと思います。

一方で、成果が芳しくなく、交付金の減額を余儀なくされる大学に対しては、結果として、例えば、若手教員の確保など、本来やるべきことが先送りされるような負のループに入らないように、予算減額見込みをあらかじめ示し、運営体制等を見直す猶予期間を与えるというのは大事ではないかと思いますので、この点に関しての考慮をお願いしたいと思います。

2つ目は、農地の集積、集約の促進についてですけれども、農業を真の競争力のある産業とするためには、よく議論されていることではありますが、大規模経営による効率化を図ることは不可欠であります。

そのためには、耕作放棄地の活用を含む、さらなる農地の集約化、大型化を図っていく必要があります。必要な政策を総動員し、この実現に向け、迅速に対応をいただきたいと、そういうふうに願っております。

以上です。

○宮腰行政改革担当大臣 ありがとうございます。

次に、河村議員さん、お願いします。

○河村議員 今年も「秋のレビュー」に参加をさせていただきまして、いろいろ成長につながる事業、訪日外国人の受け入れから農地の集約、それから、大学改革まで幅広く取り上げられてよかったのではないかと思います。

いろいろ田中議員からもお話がありましたが、今年は、山形大学での取り組みがあったと思うのですが、東京のほうは、この本番の3日間、国民への周知というか、広報の点で少し課題が残ってしまったかなと思っております。

当日、傍聴者を入れることができなかつたのは、4号館の耐震工事の関係がおりだつたようで、やむを得ないなと思いますけれども、ただ、全体的に各種主要新聞の報道とも、

例年に対比して少し少な目だったかなと。それで、私はレビューに参加させていただいて、当日、ニコニコ動画の画面が流れるのですけれども、本当に多い年は、コメントが画面を消すぐらいわっと流れていく年もあるのですが、ちょっと今年は、私が参加した2事業や、控え室でビデオを拝見していたコマを見る限りでは、ちょっと少なかったかなと。やはり、消費増税を控えて、歳出の効率化、改革の取り組みをどういうふうに行っているかということ、国民に十分に理解していただくような機会でもあると思いますので、そういったところで、もう少し工夫することが、また、今後はできるかなと思っております。

以上です。

○宮腰行政改革担当大臣 どうもありがとうございます。

それでは、大塚議員さん、お願いいたします。

○大塚議員 私からも2点申し上げたいと思います。

1つは、観光でありますけれども、もう既に3000万人の訪日客が来られているという状況になっておまして、受け入れ体制の整備も順調に進んでは来ていると思うのですが、問題は、今年は特に災害が多かったということもありますけれども、災害時の対応、何もわからない外国の方に、災害時の案内体制等々、これをきちんとしていかなければいけないというのが、非常に大きな課題ではないかなと思いますので、この点について、さらに議論が深まるようなことを、ぜひ、お願いしたいと思います。

もう一つは、社会保障の問題でありますけれども、今までのレビューでは、介護について扱われたというふうにお伺いしておりますが、大変すばらしいことだと思います。

やはり、社会保障制度については、改革の必要性ということについては、既に多くの方が理解されておるだろうと思いますけれども、具体的にどう進めていくかということになると、いろんな問題がある。

その中で、特に将来を考えると、全世代というものを対象にした受益と負担とのバランス、これをどうするかという議論は避けて通れないだろうと思いますので、ぜひ、この際、こういった制度の改革というのは不可避であるということ、こういったレビューなどを通じて丁寧に国民の皆様に説明し、そして、御理解をいただくということをしていくということが、これから、いろいろ改革をするときにも非常に大事なことになるのではないかなと思いますので、この点について、さらに御尽力をお願いしたいと思います。

以上です。

○宮腰行政改革担当大臣 ありがとうございます。

秋池議員さん、お願いいたします。

○秋池議員 今回の年次公開検証なのですけれども、その中で、1つ特徴的だと思したのは、金額を下げるということだけではなくて、同じ質で金額を下げる、あるいは同じ金額で質を上げると、同じ予算でというようなことの横展開というものが入ってきていることが、とても優れたことだと思っております。

そういった新しい方法が入ってきたということは、評価すべきことだと思っております

し、それから、検証の方法そのものは、非常に整ってきまして優れたものになってきていると考えております。

一方で、検証される側が、検証の方法になれてくるということもございまして、うまくつくられてしまうということもおいおい出てくるのではないかと考えてございまして、一方で、行革の事務局が一つ一つ見るというのには限界もございまして。

やはり、予算を適正に使うということへの個々の担当への評価というものが求められる段階になってきているのではないかと考えております。

○宮腰行政改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、渡議員さん、お願いいたします。

○渡議員 私からは、1点、PFI事業の推進について申し上げたいと思います。

今国会で水道法改正法案が成立したことは、まことに喜ばしく、これによって、今後、上下水道のPFIが積極的に推進されるものと期待されます。

一方で、PFIという制度のメリットについては、国民の間での理解度にまだまだ課題があると思います。

こうした中、今回の「秋のレビュー」において、下水道PFIの推進について取り上げたことは、大変グッドタイミングだったと思います。ぜひ、これからも議論を深めていっていただきたいと思います。

また、上下水道のコンセッションに伴う地方債の繰り上げ償還の際の保証金免除措置の必要性については、昨年「秋のレビュー」で議論をされたところでありますけれども、これを受けて、今年の通常国会においてPFI法改正の中で、具体的な制度が措置されました。これも行革の取り組みの大きな成果だったと考えます。改めてPFI法や水道法の改正等に御尽力を賜りました関係者の皆様にお礼を申し上げるとともに、今後、こうした制度の有効活用を通じて、公共事業の民営化が各自治体で積極的に展開されるよう、引き続き政府の全面的なバックアップをよろしくお願いいたします。

私からは、以上です。ありがとうございます。

○宮腰行政改革担当大臣 ありがとうございます。

森田議員さん、お願いします。

○森田議員 これまで発言された議員の皆さんは、個別的な論点について御指摘をされておりますが、私は、共通する要素について、2点お話しさせていただきたいと思います。

1点目は、国立大学法人の運営費交付金のところでも指摘されておりますけれども、多くのこうした成果についての評価がアウトプット、すなわち行政機関なり行政組織が何をするかということが目標にされておりますけれども、そうではなくて、それによって社会がどう変わったかというアウトカムを指標にするということが必要だと思っておりますし、そのアウトプットが、行政の活動が、なぜ、その社会的な変化をもたらすかという、その因果関係を明確化していくことが重要ではないかと思っております。これが1点目でございます。

2点目は、最後の統計調査のところでも指摘されているところですが、オンライン化とい

いでしょうか、ICTを使った形でのさまざまな情報収集、分析というのは、もっと活用されてしかるべきではないかと思えます。

統計調査だけではなくて、一般的にそれが活用され、その中で自動的にさまざまなデータが集まってくるという仕組みをもう少し導入すべきではないかと思っております。

以上でございます。

○宮腰行政改革担当大臣 畠中議員さんは、ネームプレートが立っていないので、次に、土居議員さん、お願いいたします。

○土居議員 私も山形でのレビューにかかわりまして、宮腰大臣もお越しいただいて、大変重みがあった議論だったと思えます。大臣がいらっしゃるか、いらっしゃらないかというのは、大分議論の展開に違いがあるなという気がいたしました。

特に、これから全世代型社会保障を進めていくということである限り、社会保障に対する国民の理解というのは、もっと浸透していくべきだと思えます。

特に、空気みたいに社会保障給付を国民は感じておると、あつて当たり前と、だけれどもないと困ると、こういうようなところはあるので、どういう仕組みでやっているのかということ、こういう「秋のレビュー」という形をとって公開の場で議論をするということは、社会保障の国民的な理解を深める意味でも大切だと思えます。

さらに、今回の介護サービスに関する議論は、必ずしも来年度予算に、直ちに影響するという事ではないかもしれませんが、長い目を見て、今、議論したということが、来年、再来年に生きてくるといふようなこともあると思えますので、これに類する事業を積極的にレビューで取り上げるということは、これから進めていっていいのではないかとと思えます。

以上です。

○宮腰行政改革担当大臣 先生方、どうもありがとうございました。

それでは、麻生副総理から御発言をお願いいたします。

○麻生副総理・財務大臣 それでは、今回の取りまとめにつきましては、有識者の方々から、予算の重点化・効率化を進める上で非常に有益な御指摘をいただいたものと考えております。

財務省といたしましても、行政改革推進本部と連絡をして、よく連携をとり、今回の取りまとめで指摘されました事項について、各府省とともに検討を行い、結果を平成31年度予算にしっかりと反映させ、予算の重点化・効率化を進めてまいりたいと考えております。

○宮腰行政改革担当大臣 それでは、最後に安倍総理から御発言をいただきたいと思えます。

プレスが入室いたしますので、少々お待ちください。

(報道関係者入室)

○宮腰行政改革担当大臣 安倍総理、それでは、よろしくをお願いいたします。

○安倍内閣総理大臣 委員の皆様におかれましては、本年も「秋のレビュー」に御協力を

いただいたことに御礼申し上げたいと思います。

行政改革は、政策効果を向上させ、政府に対する国民の信頼を得るために重要な取り組みであります。

国民の皆様に御負担をいただく税金により、行政としてさまざまな事業を行っていくに当たっては、効果的・効率的なものとなるよう、不断に改善をしていく必要があります。

国民の皆様に公開されるレビューは、そのための重要な機会であらうと思います。

また、森田議員からも御指摘があったわけですが、行政改革によって税金の無駄遣いをなくしていく、あるいはより効果的にしていくということと同時に、政策的な評価によってよりサービスが向上していく、あるいは日本の国としてのさまざまな競争力が上がっていく、そして、また、国民一人一人の生活について、よりいい意味での、あるいは生活を豊かにしていく、いい意味での効果が出てくるのだということも含めて、しっかりと説明をしていく必要もあるのだろうなど、このように思っておりますが、そういう面においても御協力をいただいていることに感謝申し上げます。

本日、宮腰大臣から御報告があったとおり、本年は我が国の今後の成長基盤の鍵を握る重要な存在である国立大学の運営費交付金など、多岐にわたる論点について取りまとめたいただきました。

麻生副総理からも御発言があったとおり、来年度予算に的確に反映するとともに、より一層の事業の改善に取り組んでまいります。

また、本日、委員の皆様から御発言をいただいた点についても、しっかりと受けとめて、今後の政策運営に当たってまいりたいと思いますので、委員の皆様におかれましても、引き続きの御協力をよろしくお願いいたします。

○宮腰行政改革担当大臣 ありがとうございます。

プレスの方は、ここで御退室ください。

(報道関係者退室)

○宮腰行政改革担当大臣 ありがとうございます。

以上をもちまして、会議を終了いたします。

ありがとうございました。